

にほん まな にほんご きょうざい
「日本」を学ぶ日本語教材



日本 (下)

(日) 大森和夫 (日) 大森弘子 曲 维 著

新 版

外语教学与研究出版社

にほん まな にほんご きょうざい
「日本」を学ぶ日本語教材

日本

江苏工业学院图书馆
藏书章

(下)

(日) 大森和夫 (日) 大森弘子 曲 維 著

新版

編集・発行 = 日本・国際交流研究所

外语教学与研究出版社
北京

图书在版编目(CIP)数据

日本. 下: 新版 / (日)大森和夫, (日)大森弘子, 曲维著. —北京: 外语教学与研究出版社, 2005. 11

ISBN 7 - 5600 - 5202 - 9

I. 日… II. ①大… ②大… ③曲… III. 日语—语言读物 IV. H369.4

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2005) 第 124469 号

出 版 人: 李朋义

责任编辑: 杜红坡

封面设计: 牛茜茜

出版发行: 外语教学与研究出版社

社 址: 北京市西三环北路 19 号 (100089)

网 址: <http://www.fltrp.com>

印 刷: 北京京科印刷有限公司

开 本: 880×1230 1/32

印 张: 11.25 插页 0.125

版 次: 2005 年 11 月第 1 版 2005 年 11 月第 1 次印刷

书 号: ISBN 7 - 5600 - 5202 - 9

定 价: 17.90 元

* * *

如有印刷、装订质量问题出版社负责调换

制售盗版必究 举报查实奖励

版权保护办公室举报电话: (010)88817519

本書(下巻)の内容に関連のある「切手」^{きって}



きん いん
金印

(第3次国宝シリーズ。
1989年8月発行)



ほうりゆう じ
法隆寺

(第1次国宝シリーズ。
1967年11月発行)



とう しょう だい じ こん どう
唐招提寺金堂

(第2次国宝シリーズ。
1977年1月発行)



みなもと より とも ぞう
源頼朝像

(第1次国宝シリーズ。
1967年11月発行)



ぼたん
牡丹 パンダ

(日中平和友好条約締結 10 年。
1988 年 8 月発行)



こっかいぎじどう
国会議事堂と

ちゅうおうひろまゆかめん
中央広間床面のモザイク模様
(議会開設 110 年。
2000 年 11 月発行)



むらさきしきぶにっきえまき
紫式部日記絵巻

(第 2 次国宝シリーズ。
1976 年 12 月発行)



なつめそうせき
夏目漱石

(文化人シリーズ。
1950 年 4 月発行)



し ま ざ き とう ぞん し
島崎藤村と詩
(平成5年文化人。
1993年11月発行)



ば しょう ぞう く しよ
芭蕉像 句の書
(奥の細道シリーズ。
1987年2月発行)



みや ざわ けん じ
宮沢賢治
(平成8年文化人。
1996年8月発行)



つるのはたおり
(昔ばなしシリーズ。
1974年2月発行)



はな
花さかじじい
(昔ばなしシリーズ。
1973年11月発行)



うらしまたろう
浦島太郎
(昔ばなしシリーズ。
1975年1月発行)



いっすんぼうし
一寸法師
(昔ばなしシリーズ。
1974年6月発行)



きよみずでらほんどう
清水寺本堂 《清水の舞台》
(第2次国宝シリーズ。
1977年11月発行)

ほんぶん ちゅうしゃく しつもん たんとうしゃ りやくれき
[本文、注釈・質問]担当者の略歴

本文

- ☆大森和夫 1940年生まれ。早稲田大学政治経済学部政治学科卒。
朝日新聞記者(政治部、編集委員)を経て、1989年に国際交流研究所を設立。「中国の大学生、院生『日本語作文コンクール』」の「作文集」や、「日本語交流のすすめ」などの編著書。現在、国際交流研究所所長、上海朝日文化商務培訓中心理事長。
- ☆大森弘子 1940年生まれ。京都女子短期大学家政学部卒。
日本語教材『日本』編集長

注釈・質問

- ☆曲 維 1953年生まれ。中国・遼寧師範大学卒。日本・同志社大学に留学、愛媛大学で中国語の専任講師。『日本の文字』、『新編基礎日本語』、『解雇』など著書、訳書多数。
現在、遼寧師範大学副学長、遼寧師範大学日本語科教授、中国日語教学研究会副会長。

● [題字]

大森弘子

● [巻頭の写真]

平成17年3月25日、郵模第1656号

まえがき

海外で多くの若者が「外国語としての日本語」を学んでいることに、日本人の一人として心から感謝致します。しかし、日本と日本人の「実際の姿」をどれだけ理解してもらっているだろうか、という不安も少なくありません。

海外の大学で日本語を教えている何人かの教授からこんな話を聞いたことがあります。「日本語が一通り出来ても、日本に関する知識が貧弱な学生が多い。まして、日本の最新の情報や常識を踏まえて日本について考えることは至難のわざだ」、「日本との友好を深めるためにも、日本のことを出来るだけたくさん知って、真の日本を理解できる日本語教育が必要だと痛感している」。

「語学訓練」型に偏らないで、「文化理解」を重視した日本語教育を進めることが海外の日本語教育にとって共通の課題だと思います。

人と人、国と国の交流・友好を深めるためには、相手の人と国のいろいろな面を知って理解することが不可欠です。

外国語を学ぶ大きな目的は言うまでもなく外国の言葉を読んだり、書いたり、話をしたりすることですが、「語学」を通して、

その国の「^{しやかい}社会」や「^{ぶんか}文化」や「^{かたが}人の^{かた}考え方・^{しんじょう}心情」などを理解できれば、^{ぞうしん}友好増進に大きく^{こうけん}貢献することができると信じます。

そこで、日本語を^{べんきやう}勉強しながら、「日本と日本人」について、さまざまな知識を身に付けてもらい、^{はばひろ}幅広く理解してもらうことを願って本書を^{ねが}作成しました。

本書が、海外の日本語学習者にとって、日本理解の良き^{よき}手引き^{てびき}書、身近な^{しよ}参考書、^{みちか}楽しい^{さんこうしよ}教材になることを願っています。

大森 和夫

2005年11月

目 次

【一】	日本の歴史	1
第一章	原始・古代	1
第二章	中世	15
第三章	近世	23
第四章	近代・現代	36
【二】	日本の制度と社会	54
第一章	日本国憲法	54
第二章	元号（年号）	65
第三章	政治	73
第一節	三権分立	73
第二節	政治の特質と政党の変遷	86
第四章	経済	96
第一節	戦後経済の歩み	96
第二節	日本型経営のメリット・デメリット	100
第三節	今後の課題	105
第五章	教育	114
第一節	学校教育の歴史・制度と課題	114
第二節	大学入試制度	126

第六章	高齢社会 <small>こうれいしゃかい</small>	139
第一節	進む高齢化 <small>すすむこうれいか</small>	139
第二節	介護保険 <small>かいごほけん</small>	146
【三】	日本の文学<small>にほんぶんがく</small>	153
第一章	古典文学 <small>こてんぶんがく</small>	153
第一節	『源氏物語』 <small>げんじものがたり</small>	153
第二節	『万葉集』 <small>まんようしゅう</small>	162
第三節	『枕草子』 <small>まくらのそうし</small>	173
第四節	『百人一首』 <small>ひやくにんいっしゆ</small>	187
第二章	近代文学①—小説 <small>きんだいぶんがく①—しょうせつ</small>	198
第一節	夏目漱石 <small>なつめ そうせき</small>	198
第二節	森鷗外 <small>もり おうがい</small>	210
第三節	島崎藤村 <small>しまざき とうそん</small>	220
第四節	大江健三郎 <small>おおえ けんざぶろう</small>	229
第三章	近代文学②—俳句、詩、短歌 <small>きんだいぶんがく②—はいく、し、たんか</small>	235
第一節	松尾芭蕉 <small>まつお ばしやう</small>	235
第二節	俳句の「基礎知識」と「作り方」 <small>はいくの「きそちしき」と「つくかた」</small>	244
第三節	宮沢賢治 <small>みやざわ けんじ</small>	251
第四節	石川啄木 <small>いしかわ たくぼく</small>	257
第四章	昔話 <small>むかし ばなし</small>	262
第一節	『鶴の恩返し』 <small>つる おんがえ</small>	262
第二節	『花咲か爺さん』 <small>はな さいか じい</small>	269
第三節	『桃太郎』 <small>もも たろう</small>	278
第四節	『浦島太郎』 <small>うらしま たろう</small>	286

第五節	『一寸法師』 <small>いっすんぼうし</small>	292
第六節	『笠地蔵』 <small>かさじぞう</small>	299
第五章	かるた	304
【四】	日本語の「表現」 <small>にほんご ひょうげん</small>	312
第一章	慣用句 <small>かんようく</small>	312
第二章	数字を使った四字熟語 <small>すうじをつか よじじゆくご</small>	324
第三章	助数詞 <small>じよすうし</small>	340

あとがき

州北部に稲作が伝えられた。また、鉄や青銅（注）などの金属器も伝わった。土器は、薄くて飾りの少ない素焼きの実用的なもので、弥生土器と呼ばれる。「弥生」の名前は、この様式の土器が明治17年（1884年）に東京・本郷弥生町（現在の東京都文京区弥生）の遺跡から発見されたことにちなんで付けられた。そして、この時代を弥生時代という。

稲作を基礎とし、弥生土器・金属器を使い、20戸～30戸の集落も現れ、新しい生活と文化の弥生時代は紀元3世紀ごろまで、約6百年続いた。

稲作を中心とした農耕社会の成立によって、人々の間に貧富の差が生じるようになり、支配者の出現となった。

〔注：モンゴロイド＝類モンゴル人種。

貝塚＝古代人が食べた貝の殻が積もって層をなしている遺跡。

青銅＝銅と錫の合金。〕

邪馬台国

やがて、各地に大きな集落が生まれ、それぞれが小国として形成された。

中国の歴史書『漢書』によると、「倭人（当時の中国では、日本人のことを倭人と呼んでいた）の社会は百余国に分かれて

いた」という。

紀元 57 年には、現在の福岡市付近にあった小国「奴国」の王者の使者が後漢の都、洛陽に赴いたと言われる。その時、光武帝から授かったものと考えられる金印が同市志賀島で発見されている。金印には「漢倭奴国王」と記されている。

中国では 220 年に後漢が滅び、魏・呉・蜀の三国時代を迎えた。この時代に書かれた歴史書『三国志』の「魏志倭人伝」に倭（日本）の国のことが記されている。

それによると、倭の国では 2 世紀の終わりころ、30 ほどの小国が争いを続けていた。そこで、諸国は「邪馬台国」の女王、卑弥呼を共同の王にして、争乱を収めた。邪馬台国を中心とした小国の連合が生まれたのである。卑弥呼は 239 年、魏の皇帝に使者を送り、この時、「親魏倭王」の称号と 100 枚の銅鏡を贈られた。

この邪馬台国の所在地について、九州北部とする「九州説」と、近畿地方の大和（今の奈良県）とする「近畿説」の二つに分かれ、論争が続いている。そのキーワードの一つが「三角縁神獣鏡」（直径 20 セン～30 センの大型銅鏡。神と不思議な獣の文様を持つ。縁の断面が三角形）である。

平成 10 年（1998 年）1 月、この三角縁神獣鏡が奈良県天理市の黒塚古墳から 32 枚発見されたことが明らかになり、論争に一石

を投じた。

「近畿」説をとる人達は、「卑弥呼が魏の皇帝からもらった銅鏡は三角縁神獸鏡である」との考えから、「この発見によって、邪馬台国は近畿にあったことがより明確になった」と主張する。

一方、「九州」説を採る人達は、「卑弥呼がもらった銅鏡は、三角縁神獸鏡とは別のものであり、奈良県で発見された三角縁神獸鏡が近畿説を裏付けることにはならない」と主張している。

三角縁神獸鏡はこれまで、京都府、大阪府などの近畿を中心に九州から東北地方にかけて、500枚が出土している。ところが、中国ではまだ1枚も三角縁神獸鏡が発見されていない。このため、「卑弥呼がもらった銅鏡は100枚だけだから、それ以上の三角縁神獸鏡は日本で製造されたもの」という見方があり、「九州」説の根拠になっている。

これに対して、「近畿」説は、約半数の三角縁神獸鏡が近畿で見つかっていることから、「当時貴重だった銅を使って何百枚もの鏡を作ることは、邪馬台国以外には考えられない」という立場に立っている。

邪馬台国の候補地は全国で約60カ所あり、「邪馬台国」所在地論争は古代のロマンを秘めて、今も続いている。